

(様式3)

## 自己評価結果票 (東ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
<b>1.理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>オープンして2年余りを経て、設立当時の理念は概ね浸透して来ている、との自負はある。平成18年地域密着型を標榜することによる新しい理念作りにも取りかかっている段階になっている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の朝礼時に理念を唱和し、常に心に留めてケアできるように、日々の指針としている。「尊厳」、「見守る介護」、「家庭的」、「笑顔」を日々実践に向けて取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>当ホームの立地が古くからの住宅地にあり、オープン2年余りを経て、近隣の皆様にホームの役割を理解・周知して頂いている。家族、地域の民生委員、公民館へ広報誌を配布している。</p>	
<b>2.地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物などの外出時に挨拶や会話を心がけている。またなるべく近隣の美容室を利用している。駐車場には掲示板を掛け、気軽に立ち寄ってもらえるよう、ボランティアや行事等の案内をしている。</p>	<p>今後地域行事やボランティア等、出来ることは積極的に参加していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>深く付き合うまでは至っていないが、散歩中などに行き交う方々に挨拶が出来ている。自治会の秋祭り、とんど、盆踊り等へ見物に出かけ、地域の一員としての自覚を持ってもらっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議やボランティア行事等地域との交流は進めているが、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか具体的な話し合いや取り組みには至っていない。		オープン2年余りでホームの在り様をどうにか成立させることが出来、これからは外部への働きかけを進めて行く時が来たと考えている。会議の俎上にのせていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価を受けるのが3回目になるので、実施する意義を理解している。要改善項目について職員会議等で話し合い、前向きに捉え、利用者本位での対応が出来るよう取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の推進会議は10回を数えている。ホームの現状報告をし、委員からの助言・提言が活発に発言されるようになった。そのことで、地域への進出が図りやすくなったり、ホームを客観的に観察したりと、一体となった取り組みが出来るようになった。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町へは折に触れ窓口に出かけたり、広報誌を持参し、当ホームの現状を理解してもらっていると思うが、頻繁な往来はない。		地区の地域包括センターとの連携を考えていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で地域福祉権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会を得て、理解するよう努めている。現在のところは、活用する機会は少ないし、必要性のある利用者はいない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディアや研修等で学び報告を行っている。日々ゆとりのあるケアを行っているので、虐待等はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>交流会で出た意見等を検討し、今後実践していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく、常に馴染みの職員がケアにあたり、精神的安定が得られるよう配慮している。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社会福祉事業団主催の認知症介護実践研修には毎年2名参加。また、NPO主催の研修会にも参加している。今度発足したグループホーム連絡協議会等の勉強会に期待する。しかし、普段のシフトローテーションの中から研修に参加する困難さがある。		月1回の全体会議において、外部で受けた研修を報告する機会を作ったり、事業所内での勉強会を設けていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との話をする機会はあるが、職員同士の交流、他ホームでの研修を受けること等で、当ホームを見直したりする機会については今後取り組んでいきたい。		他ホームの見学や勉強会等に参加し、サービスの質を向上させていくよう取り組みたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が精神的に行き詰っている事象等は聞いている。一緒に解決していこうという姿勢は持ち続けているが、思いのあり方に異なる面もあつたりと、常に試行錯誤の状態である。また、有給・公休の取り方について、連休になるようシフト組みを工夫している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の取り組みや努力等には常に関心を払っている。各自の向上心が常に保たれる為には、色々な機会を捉え、研修を受けられるように努めていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み時、家族との話し合いの中で、色々な問題点を掘り起こしている。グループホームの役割も理解していただくよう努めている。利用される本人の言葉、行動を把握しながら信頼を築くよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前、入居後の色々な情報を交換し合い、対処の仕方のアイディアを出している。入居後は連絡を密にとっている。自由な電話や訪問を勧め、三位一体の取り組みに努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談の中、ホームで24時間暮らしていけるかについて、本人や家族も心配な面を見せられるが、不安な材料が何であるかを見極め、他のサービスを紹介することも含めて、対応している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まず、本人が新しい仲間の中にとけ込めるよう努め、一日の流れが自然に身につく過程で、何が出来るか見極め、それをさせていただくことで、昔とった「杵柄」になり、サービスの提供と共に身体の活性化へとつなげている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>歴史の話や戦時中等の話の聞いたり、料理の方法、味付け等を利用者より教わり、支えあうことで共に生活する家族のような関係を築いている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	以前はあまり関わりを持つとされず距離を置いて接する場面も見られた家族が、職員が何度も連絡を取り状態を説明したり話し合うことで、家族の理解を得ることができ、利用者に対しても職員に対してもよい関係が築けるようになっている。		
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時等には、日々の様子を出来る限り伝え、家族との外出の実現に向け支援している。		家族との外出が出来ていない方がおられる為、少しずつでも外出が可能な時は面会時に報告し、徐々に外泊等に繋げていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	従姉妹との外出を楽しまれている方がある一方で、職員からの支援は来ていない。外出の希望には全てには添えないが、昔懐かしい神社等への散歩にはよく出かけている。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	3ヶ月に一回程度食事のテーブルの配置を換え、利用者同士のよりよい関係が築けるように工夫している。また、調理時には、出来るだけ気のあった者同士になるよう配慮し、得意・不得意を把握している。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院となった利用者に対しては、職員が出来る限り面会に行っている。退居が決まった利用者に対しては、不安事項等の相談にのっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々、嫌いな事、得意な事等、意向を聞き、出来る限り希望は取り入れるように努めている。困難な場合は相談にのりながら、家族とも連携を図り、よりよいケアとなるよう取り組んでいる。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>面接時に本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過などを聞き取り把握している。その人らしい生活が出来るように支援している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>精神状態・心身状態等課題点についてケースカンファレンス時にケアの方向を話し合っている。一人ひとりの出来る事を維持できるよう、見落とさないように努めている。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族には面会時に希望や意向を聞き、利用者からは思いや意見、希望を聞いている。職員は会議やカンファレンスで気付きや意見を出し合い、介護計画に反映している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しを行っている。心身が著しく変化した場合は、家族の意向を聞き、職員間でもその都度話し合っている。出来る限り、利用者の思いを尊重して、見直し作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの気づき等を記録し、1ヶ月ごとにモニタリングを実施し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族のその時の状態に合わせ、希望や意見を聞き、支援している。単独のグループホームなのでその特性を活かし、きめ細やかで臨機応変な対応が出来ている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の一貫として、ボランティアを取り入れ実施している。民生委員からの提案、地域の方のボランティアの申し入れもあり、既に実行している。		地域密着型に伴い、保育園児・小中学生との交流会を実施し、生活の幅を広げたい。ホームがオープンして2年余りとなり、やっと当ホームが地域の方々に周知されてきたので、その機会を得ることが出来る。
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーと話す機会はあるが、他のサービスを利用するには至っていない。他のサービスを利用するには自己負担が発生するので、今のところ利用することは考えていない。		
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	取り組めていない。地域包括支援センターの方が運営推進委員のメンバーとなる体制が待たれる。それにより実りのある話し合いが出来ると考えている。		地域包括センターへは今後交流を深めていくべく足を運んでいきたいと思っている。また、広報誌などの配布も考えていきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診の他、各個人はかかりつけの主治医を持っており、家族の協力を得て受診している。		
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援できていない。認知症専門機関への受診希望者が多い。従来より専門医にかかっている利用者はそこでの診断や治療を受けることが出来ているが、主治医（内科医）が特に詳しく認知症について見識を深めているとは思えず、今後の課題である。		
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師不在である為、職員が健康状態の把握に努めている。健康状態に不安がある場合は主治医と連携を取りながら健康管理に努めている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院治療となるまでの過程を医療機関へ情報提供している。また、出来る限り面会に行き、病院側や家族との相談を行い、退院に向けての支援に努めている。		医療機関との連携を密に行い、利用者や家族が安心して暮らせるよう体制を整えたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、ケアの方針、取り組み等を家族と話し合い、意向を確認し、共有するようにしている。		重度化した場合の対応等について、出来る限り早い段階で家族と話し合えるよう改善に努めたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期までの対応は出来ていない。24時間体制の看護師の配置が出来れば支援に繋がると考えている。事業所の出来ること出来ないことの見極めは各々のケースについて検討している。		重度化した場合の対応等について、出来る限り早い段階で家族と話し合えるよう改善に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食を中心に、実際に職員と利用者がスーパーに行き、献立から調理までを行う、共同調理を実施している。利用者自身も活気があり、心身のケアに繋がっている。		共同調理と銘じたケアでありその効果が顕著に出ている。達成感が表情に出ている。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前に個々の嗜好調査を実施し、健康面に配慮しながら、日常の食について楽しんでいただけるよう心掛けている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の有無を記録し、自然な排泄が可能になるよう努めている。必要に応じて下剤の服用を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表を作成し、利用者に声かけを行い、希望を取り入れながら、気持ちよい入浴が出来るよう心掛けている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々の様子や状態に応じて声かけし、休息を促している。就寝時間も安定し、休まれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々のニーズに合わせて役割などを設け、生活歴や現存能力を活かした支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時には支払いが出来る方にはいただいている。日常のお金は事務所に保管している。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、喫茶、散歩、公園、外食等、利用者の希望に添って外出が出来るよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	危険等がない限りは、希望に応じて対応している。家族にも伝え、協力を得ている。		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に応じ、電話やはがき等で連絡できるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の訪問時には、お茶等を提供し、居室にてゆっくりとした時間を過ごせるように配慮している。訪問日、時間などの制限はなく、家族の訪問は多い。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット間での施設はなく、自由に交流している。身体拘束をしないケアを実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の鍵は開けており、急な場合でも、職員が目配りして対応している。門扉は、家族の希望と運営推進委員会の意見により、施錠している。		
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	始終プライバシーと安全に配慮し、利用者の様子を把握出来るように努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品は必要に応じて提供している。個人手持ちの財布の管理は自身で行っている。預かり希望者の物品についてはホームでの管理を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒等の危険を伴う利用者については日中、夜間共に目配りを重視している。事故の際には、ヒヤリハット報告を提出し、今後についてのケアを検討する機会を設けている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員間で検討会を行い、急変時に備え、利用者の急変を捉える目を養っている。また、緊急時のマニュアルを作成している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下で年1回の避難訓練、年2回の防災機器の点検を行っている。マニュアルも作成している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>介護計画作成時に、本人や家族の意見要望を聞き、一人ひとりのリスクについての対応や取り組みを家族に説明し、理解と納得を得て、家族との連携を図っている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>入浴日にはバイタルチェックを行っている。常時、顔色、表情等の観察を行い、異変時には速やかに主治医や家族に連絡し、対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の目的、副作用等について医師に確認して理解している。誤薬のないように、個別に分けるなど工夫している。薬の変更があった場合は職員全員に報告し、様子観察に努めている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎朝ラジオ体操や下肢体操を行っている。野菜を多く使う等献立を工夫し、水分量をチェックし、十分に摂取出来るように取り組んでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>自主的に清潔保持が出来ていない利用者に対しては、歯磨き、義歯の洗浄等の声かけを行っている。不十分な利用者に対しては職員が一部介助している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者全員の食事量、水分量、体重等を記録し、栄養バランスや量を調整し、必要量が確保できるように取り組んでいる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成しており、これに基づき対応予防を行っている。インフルエンザの予防接種は全員受けている。外出時、食前、調理前等には徹底的な手洗いをしている。消毒液を備え、毎朝共有域の消毒に努めている。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具の清潔衛生を保つ為、毎日の消毒を行っている。2日毎に買い物の日を設定し、必要な食材を購入している。献立や調理の工夫をし、新鮮で安全な食材が使えるよう配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りはバリアフリーであり誰もが使いやすいように工夫がしてある。玄関先には植栽が施され、可憐な草花が咲きこぼれていて、気軽に出入り出来るように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に作成した習字やちぎり絵等を飾り、季節感を感じていただけるようにしている。季節を盛り込んだカレンダーを作成し、心地よい暮らしが出来るよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや新聞等は見たい時に見てもらえるように配慮している。テーブルや椅子の配置は利用者同士の相性等をふまえて工夫している。廊下の一角にくつろげる空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より家具や思い出の品等を持って来られており、時節ごとの作品や花を飾り、精神的安定と居心地のよい居室にしている。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時に大きく窓を開け換気している。室温は外気温との差を小さくし、衣服等で調節している。気になる臭いがある場合はこまめにシーツ等を替え、清潔にしている。		冬は窓を開ける機会が少なくなってくるので、居室におられない時は窓を開け、新鮮な空気を取り入れるように換気に努める。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に全て手すりを設置し、安全に自立して生活を送れるようにしている。また、足元の不安定な利用者が外に出なくても運動が出来るよう長い廊下に手すりを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋には表札を掲げ、トイレにはドアプレートで表示している。リビングには利用者手作りの大きなカレンダーや季節に合った作品等掲示し、場所、日にち、季節の混乱を防いでいる。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関付近には邪魔にならないような小さな鉢植えやプランターを置き、出入りの時に心が和むようにしている。庭にはみかんの木や苺、葱等を育て収穫の喜びを感じるようにしている。		物干し場へ行くまでの足元の危険を回避し、常に自由に物干し場へ行き自然な行動が出来るようにしたい。

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目 (東ユニット)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

管理者でもあるオーナーが、ホームに常在しており、入居前の段階から、利用者・家族と関わりを持ち、常に家族とのコミュニケーションが取れている。利用者も困りごとを気楽にオーナーに聞いてもらえるという安心感がある。小さい単位のグループホームならではの、きめ細かで臨機応変なケアが繰り広げられている。

共同調理の実施。まず、洗い物から始め、調理については現在、職員と利用者が一緒に数名で買い物に出かけ、その時に献立から考えていただき料理を共に作り上げる取り組みを行っている。共同生活の中での本人の自信につながり、生活全般に活性化がみられるようになり、達成感も味わっていただいている。本人らしさや意思を尊重し、出来ることを探し、役割を持っていただき、ケアの向上に努めている。

実例として、入居された当日より興奮状態で、家族と本人の関係が険悪な状態であった方が、職員の懸命な関わりやケアを実践していくことで家族が評価してくださり、現在落ち着かれ、家族と本人との信頼関係を取り戻し、感謝していただいているケースがある。

(様式3)

## 自己評価結果票 (西ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
<b>1.理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>オープンして2年余りを経て、設立当時の理念は概ね浸透して来ている、との自負はある。平成18年地域密着型を標榜することによる新しい理念作りにも取りかかっている段階になっている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の朝礼時に理念を唱和し、常に心に留めてケアできるように、日々の指針としている。「尊厳」、「見守る介護」、「家庭的」、「笑顔」を日々実践に向けて取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>当ホームの立地が古くからの住宅地にあり、オープン2年余りを経て、近隣の皆様にホームの役割を理解・周知して頂いている。家族、地域の民生委員、公民館へ広報誌を配布している。</p>	
<b>2.地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物などの外出時に挨拶や会話を心がけている。またなるべく近隣の美容室を利用している。駐車場には掲示板を掛け、気軽に立ち寄ってもらえるよう、ボランティアや行事等の案内をしている。</p>	<p>今後地域行事やボランティア等、出来ることは積極的に参加していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>深く付き合うまでは至っていないが、散歩中などに行き交う方々に挨拶が出来ている。自治会の秋祭り、とんど、盆踊り等へ見物に出かけ、地域の一員としての自覚を持ってもらっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>オープン2年余りでホームの在り様をどうにか成立させることが出来、これからは外部への働きかけを進めて行く時が来たと考えている。会議の俎上にのせていきたい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>地区の地域包括センターとの連携を考えていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>家族との交流会が好評であったので、今後も家族との交流会を計画し、意見や思いを聞く機会を持ちたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく、常に馴染みの職員がケアにあたり、精神的安定が得られるよう配慮している。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社会福祉事業団主催の認知症介護実践研修には毎年2名参加。また、NPO主催の研修会にも参加している。今度発足したグループホーム連絡協議会等の勉強会に期待する。しかし、普段のシフトローテーションの中から研修に参加する困難さがある。		月1回の全体会議において、外部で受けた研修を報告する機会を作ったり、事業所内での勉強会を設けていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との話をする機会はあるが、職員同士の交流、他ホームでの研修を受けること等で、当ホームを見直したりする機会については今後取り組んでいきたい。		他ホームの見学や勉強会等に参加し、サービスの質を向上させていくよう取り組みたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が精神的に行き詰っている事象等は聞いている。一緒に解決していこうという姿勢は持ち続けているが、思いのあり方に異なる面もあつたりと、常に試行錯誤の状態である。また、公休の取り方について、連休になるようシフト組みを工夫している。		職員の補充により、勤務調整がしやすくなり、有給休暇が取りやすくなるよう取りくんでいきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の取り組みや努力等には常に関心を払っている。各自の向上心が常に保たれる為には、色々な機会を捉え、研修を受けられるように努めていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み時、家族との話し合いの中で、色々な問題点を掘り起こしている。グループホームの役割も理解していただくよう努めている。利用される本人の言葉、行動を把握しながら信頼を築くよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前、入居後の色々な情報を交換し合い、対処の仕方のアイデアを出している。入居後は連絡を密にとっている。自由な電話や訪問を勧め、三位一体の取り組みに努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談の中、ホームで24時間暮らしていけるかについて、本人や家族も心配な面を見せられるが、不安な材料が何であるかを見極め、他のサービスを紹介することも含めて、対応している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>先ず、本人が新しい仲間の中にとけ込めるよう努め、一日の流れが自然に身につく過程で、何が出来るか見極め、それをさせていただくことで、昔とった「杵柄」になり、サービスの提供と共に身体の活性化へとつなげている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常の会話の中で、利用者から出てくる何気ない話題、花の名前であったり、草花の育て方、遊び事等、時代に即した生活の模様などをおりませ、談笑し、信頼関係を築いている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	外出や病院への定期受診の際に家族の協力を得ている。利用者、家族、職員との親密な関係を築いていくよう努めている。また、家族には日々の生活の様子を話し、現状を理解していただいている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は利用者との家族のこれまでの関係を理解し家族との面談を設けている。面会が少ない家族より「外食をしていきたい」と言われるようになった。入居前に家族とのより良い関係が持てなかった利用者に対して、関係が改善できるように取り組んでいる。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近所の方に訪問していただいたり、家族や友人からの手紙の交流などにより、関係が保てるよう支援している。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を職員が把握している。個々が行える、配膳や片付けを利用者同士が助け合っている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した利用者の面会に行き、状態の把握をしている。利用が終了しても、家族の相談を受けられるよう関係を築いている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の思いや希望を聞き取り、対応可能なときは直ぐに実行している。困難な場合は話し合いを持ち、検討することを伝え、本人に理解を求めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族にこれまでの生活歴や暮らし方を聞き、利用者本位でその人らしい生活が出来るようにケアにつなげている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの仕事を見つけ、個々の過ごし方も大切にしながら、利用者の現状を総合的に把握している。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意見や意向を聞き、個々のカンファレンスを行い、今後のケアを検討し、介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月1回のモニタリングを実施し、変化が生じた場合は家族や職員間で話し合いを持ち、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを実践し、個々のケース記録に書き留め、次への反省や計画見直しへと繋げている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族のその時の状態に合わせ、希望や意見を聞き、支援している。単独のグループホームなのでその特性を活かし、きめ細やかで臨機応変な対応が出来ている。家庭的で、ぬくもりのある居室にしている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の一貫として、ボランティアを取り入れ実施している。民生委員からの提案、地域の方のボランティアの申し入れもあり、既に実行している。		
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーと話す機会はあるが、他のサービスを利用するには至っていない。他のサービスを利用するには自己負担が発生するので、今のところ利用することは考えていない。		
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	取り組めていない。地域包括支援センターの方が運営推進委員のメンバーとなる体制が待たれる。それにより実りのある話し合いが出来ると考えている。		地域包括センターへは今後交流を深めていくべく足を運んでいきたいと思っている。また、広報誌などの配布も考えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診の他、各個人はかかりつけの主治医を持っており、家族の協力を得て受診している。		
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援できていない。認知症専門機関への受診希望者が多い。従来より専門医にかかっている利用者はそこでの診断や治療を受けることが出来ているが、主治医（内科医）が特に詳しく認知症について見識を深めているとは思えず、今後の課題である。		
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師不在である為、職員が健康状態の把握に努めている。健康状態に不安がある場合は主治医と連携を取りながら健康管理に努めている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院治療となるまでの過程を医療機関へ情報提供している。また、出来る限り面会に行き、病院側や家族との相談を行い、退院に向けての支援に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、ケアの方針、取り組み等を家族と話し合い、意向を確認し、共有するようにしている。		重度化した場合の対応等について、出来る限り早い段階で家族と話し合えるよう改善に努めたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期までの対応は出来ていない。24時間体制の看護師の配置が出来れば支援に繋がると考えている。事業所の出来ること出来ないことの見極めは各々のケースについて検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みの食材を聞きながら、また楽しみも増えるよう配慮している。利用者には盛り付けを中心にってもらい、職員といっしょに片付けている。		
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前に個々の嗜好調査を実施し、健康面に配慮しながら、日常の食について楽しんでいただけるよう心掛けている。また、好まない食材を使った場合は代替食を提供している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の利用者の排泄状況を把握し、その方に合った排泄パターンをつかみ、トイレへの声かけ、自立排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者自身の希望を大切にし、無理強いをしないよう支援している。入浴チェック表を作成している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常生活の中で、生活リズムにメリハリをつけ、安眠、休息が出来る環境づくりを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の現存機能を活かし、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、役割を持っていただくよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時には支払いが出来る方にはいただいている。日常のお金は事務所に保管している。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、喫茶、散歩、公園、外食等、利用者の希望に添って外出が出来るよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ等で季節の花を見に出かけたり、神社への参拝等、利用者の希望に添って外出が出来るよう取り組んでいる。また、家族との外出に繋がるよう支援している。		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各利用者の能力に応じ、電話や手紙での近況報告が出来るように支援している。郵便物が届いている利用者もある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者と利用者が気軽に交流でき、居心地よく過ごせるよう支援している。訪問日、時間などの制限はなく、家族の訪問は多い。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット間での施設はなく、自由に交流している。身体拘束をしないケアを実践している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に行かれている時は利用者の気持ちに配慮し希望に添って対応し、そのまま外への散歩に誘導することがある。敷地内では自由に出入りが出来るようケアしている。門扉は、家族の希望と運営推進委員会の意見により、施錠している。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	始終プライバシーと安全に配慮し、利用者の様子や所在を把握出来るように努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、危険物（はさみ、針）を職員の目の届く範囲内に管理し危険を防いでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒等の危険を伴う利用者については日中、夜間共に目配りを重視している。事故の際には、ヒヤリハット報告を提出し、今後についてのケアを検討する機会を設けている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応のマニュアルはあるが、応急手当、初期対応の訓練を定期的には行っていない。		急変時の対応として、低血糖者への血糖値測定の実践は行えているが、急変対応への訓練や勉強会を定期的に行っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下で年1回の避難訓練、年2回の防災機器の点検を行っている。マニュアルも作成している		的確な非難が出来るよう避難訓練の回数を増やすようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	介護計画作成時に、本人や家族の意見要望を聞き、一人ひとりのリスクについての対応や取り組みを家族に説明し、理解と納得を得て、家族との連携を図っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々バイタルチェックや表情などの様子を観察し、変化のある場合は速やかに職員間で情報を共有し、病院や家族に連絡し、対応している。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用等について医師に確認して理解している。誤薬防止のため、再確認している。薬の変更があった場合は変更後の様子確認に努めている。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量の確保に努め、散歩や体操を行い、自然排便を促す工夫をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがいや義歯洗浄の声かけを行っている。不十分な利用者に対しては職員が一部介助している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分を摂ることについての必要性を話している。利用者全員の食事量、水分量、体重等を記録し、栄養バランスや量を調整し、必要量が確保できるように取り組んでいる。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成しているので、常に喚起し、意識付けする必要がある。インフルエンザの予防接種は全員受けている。外出時、食前、調理前等には徹底的な手洗いを行っている。消毒液を備え、毎朝共有域の消毒に努めている。		日頃の生活の中で予防、対応は出来ているが、今後一層の危機意識を持ち、マニュアルの励行を厳守するよう努める。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具の清潔衛生を保つ為、毎日の消毒を行っている。2日毎に必要な食材を購入している。献立や調理の工夫をし、新鮮で安全な食材が使えるよう配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りはバリアフリーであり誰もが使いやすいように工夫がしてある。玄関先には植栽が施され、可憐な草花が咲きこぼれていて、気軽に出入り出来るように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の書道、手作り絵手紙等を飾り、季節感を取り入れている。毎月のカレンダーは季節を盛り込んで手作りし、五感の刺激になるよう努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室では思い思いに過ごし、リビングでは、ソファでくつろいだり、気のあった利用者同士で談話して過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物を利用し、アルバムを置くなどして居心地よく過ごせるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除時の換気、部屋への換気をこまめに行っている。室温は外気温と大きな差がないように配慮して調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に全て手すりを設置し、安全に自立して生活を送れるようにしている。居室はテーブル等の家具が歩行の際の障害にならないよう配置に配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状況に合わせ、声かけすることにより、混乱や失敗を回避している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関付近には邪魔にならないような小さな鉢植えやプランターを置き、出入りの時に心が和むようにしている。庭にはみかんの木や苺、葱等を育て収穫の喜びを感じるようにしている。玄関前のベンチでは天候のよい日等にオープンカフェを開いている。		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目 (西ユニット)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

管理者でもあるオーナーが、ホームに常在しており、入居前の段階から、利用者・家族と関わりを持ち、常に家族とのコミュニケーションが取れている。利用者も困りごとを気楽にオーナーに聞いてもらえるという安心感がある。小さい単位のグループホームならではの、きめ細かで臨機応変なケアが繰り広げられている。

日常生活では、各自の部屋の掃除を出来る範囲で行っていただく等、身体を動かすことで下肢筋力の低下を防ぐよう取り組んでいる。個々のレベルに合わせたレクリエーション、外食、喫茶等を楽しみ、季節の行事を取り入れ、日々の生活をその人らしく過ごせるよう支援している。また、日々の生活場面を残していくためにユニットアルバム作りにも力を入れている。